「作業療法士養成施設における倫理関連事項に関する調査」結果

日本作業療法士協会
倫理委員会　周知・啓発係

2022年11月

【調査の目的】

- 作業療法士養成施設における倫理教育や研修、組織体制の在り方を検討する基礎情報を得る

【調査方法】

- 対象：全国の作業療法士養成施設
  （回答者は各養成施設の代表作業療法士）
- 方法：Web上で回答する方式のアンケート
- 内容：１）学生に対する倫理教育と体制について
  2）教員や職員に対する倫理教育と体制について
- 調査期間：2021年11月2日から　2021年11月30日

【調査結果】

- 回答数：120/220校　（回答率：54.5%）

※うち10校は基本情報のみの入力で各項目は未回答

- 有効回答数：110/220校　（回答率：50%）

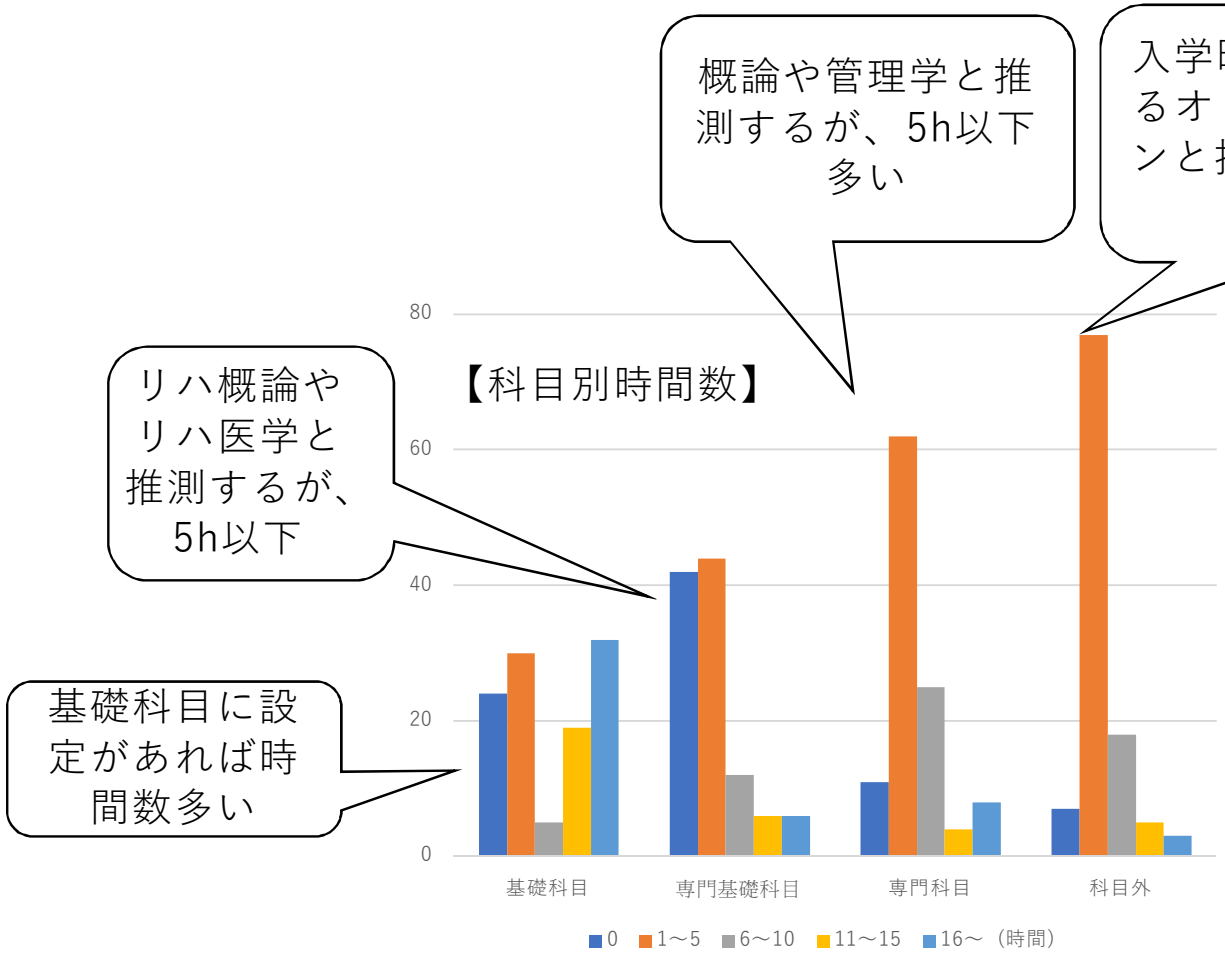
- 回答内訳

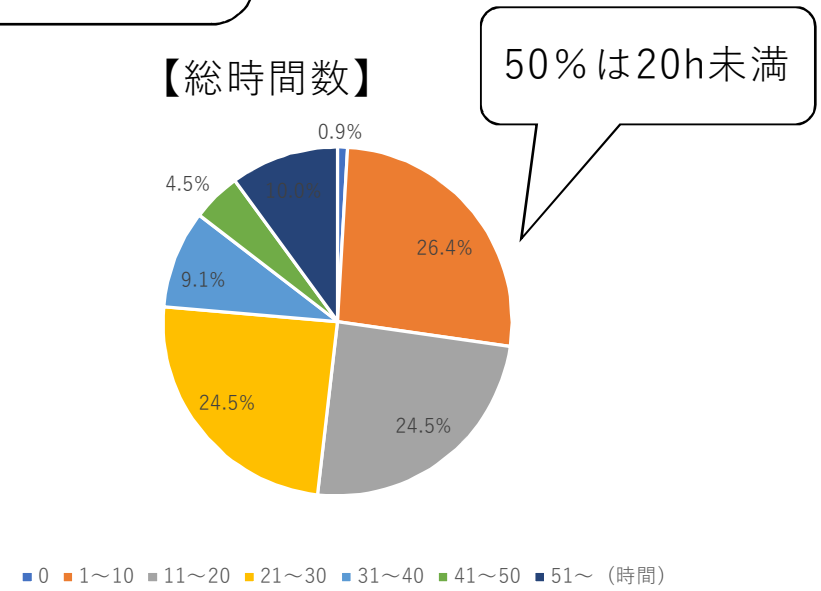
専門学校	55/110校
大学（短期大学含む）	54/110校
不明	1/110校

【学生に対する倫理教育と体制について】

＊吹き出しには、倫理委員会による解釈・回答者のコメントを加えている

1.学生が卒業までに受講する倫理に関する講義の時間数（概数）

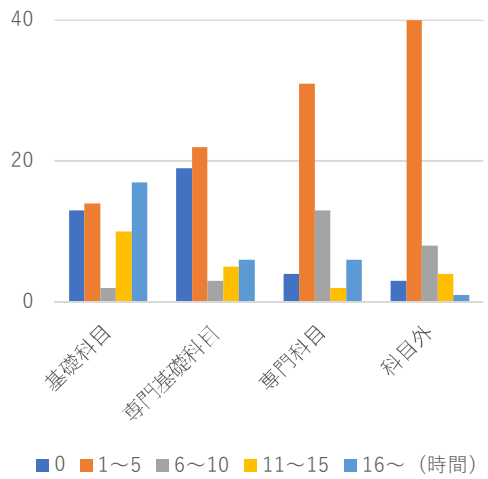




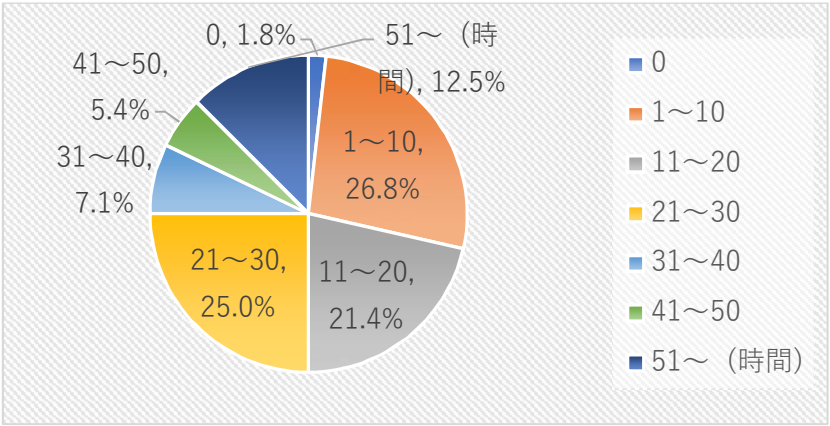
1.学生が卒業までに受講する倫理に関する講義の時間数（概数）

大学（短大含む）

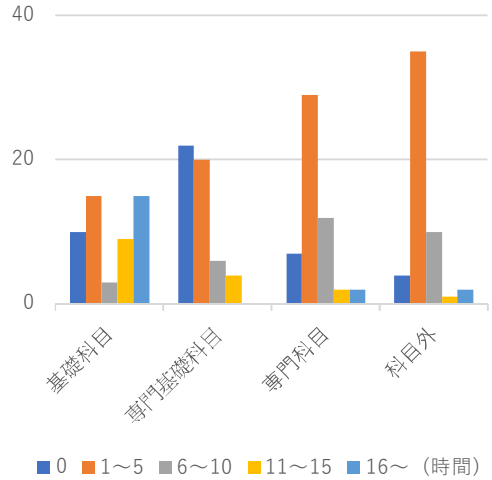
科目別

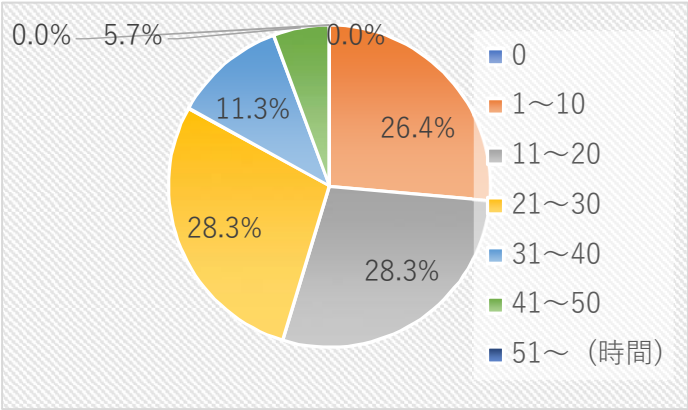


総時間数



専門学校





時間数比較検定

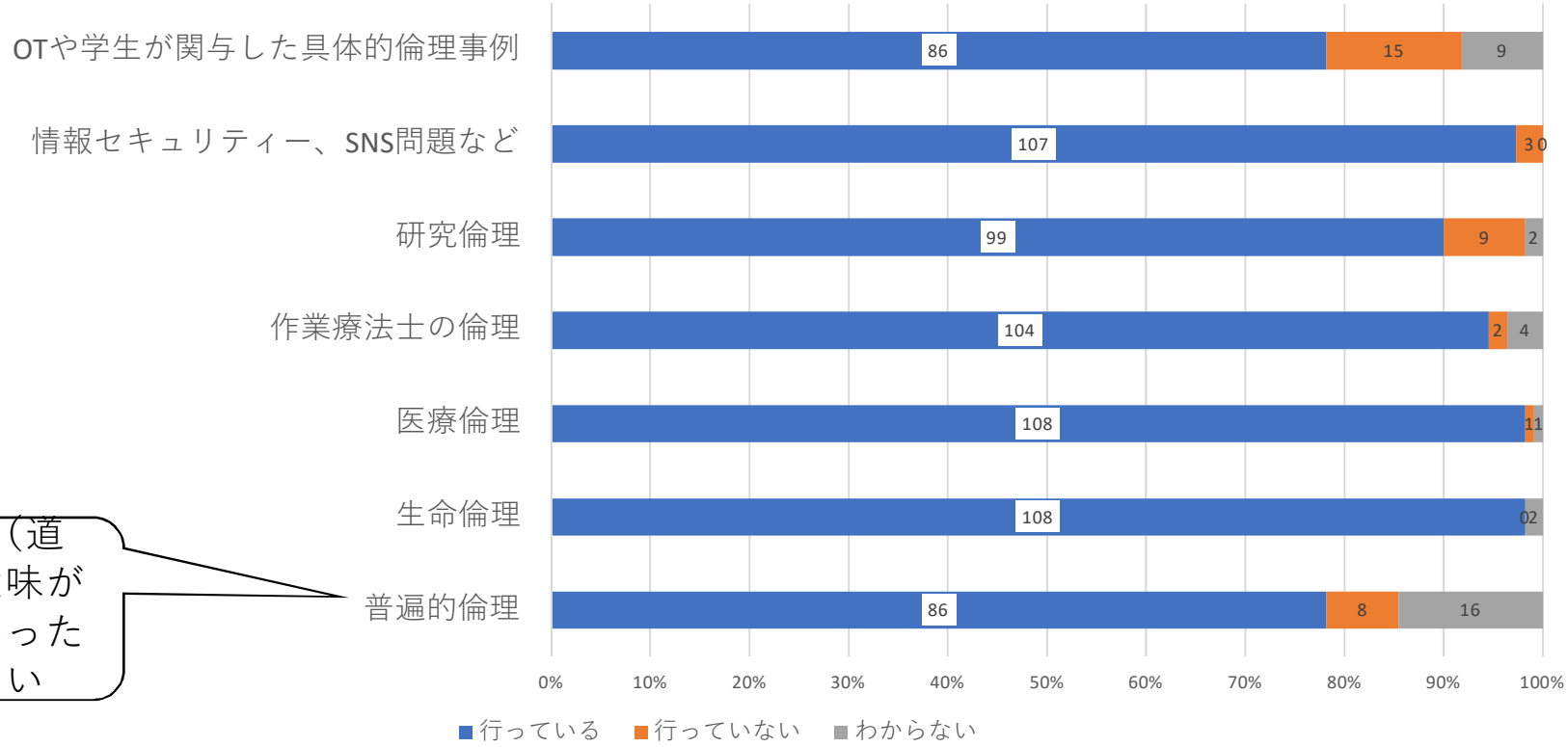
専門学校における時間数が少ない傾向

	種別	n	平　均	SD	P値
基礎科目時間	大学・短大	56	9.3	8.4	0.81
	専門学校	54	9.0	8.4	
専門基礎科目時間	大学・短大	55	4.4	6.3	0.07
	専門学校	54	2.6	4.0	
専門科目時間	大学・短大	56	6.2	5.9	0.11
	専門学校	54	4.6	4.5	
科目外時間	大学・短大	56	4.4	4.2	0.79
	専門学校	54	4.2	4.1	
総時間	大学・短大	56	24.3	18.1	0.18
	専門学校	54	20.3	12.1	

2.学生に対する倫理教育に、以下の内容を含んでいますか

生命倫理、医療倫理に比べ、研究倫理、普遍的倫理に関する教育を行ってない割合多い

「具体的事例提示は行ってない」が比較的多い

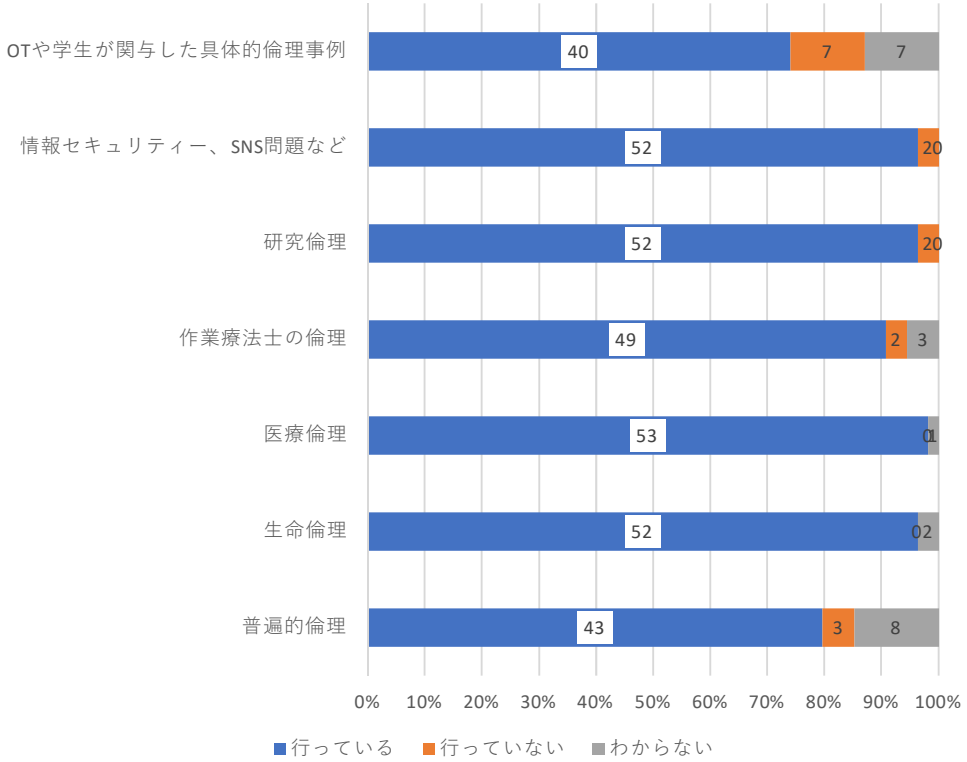


普遍的倫理（道徳）という意味が分かりにくかったかもしれない

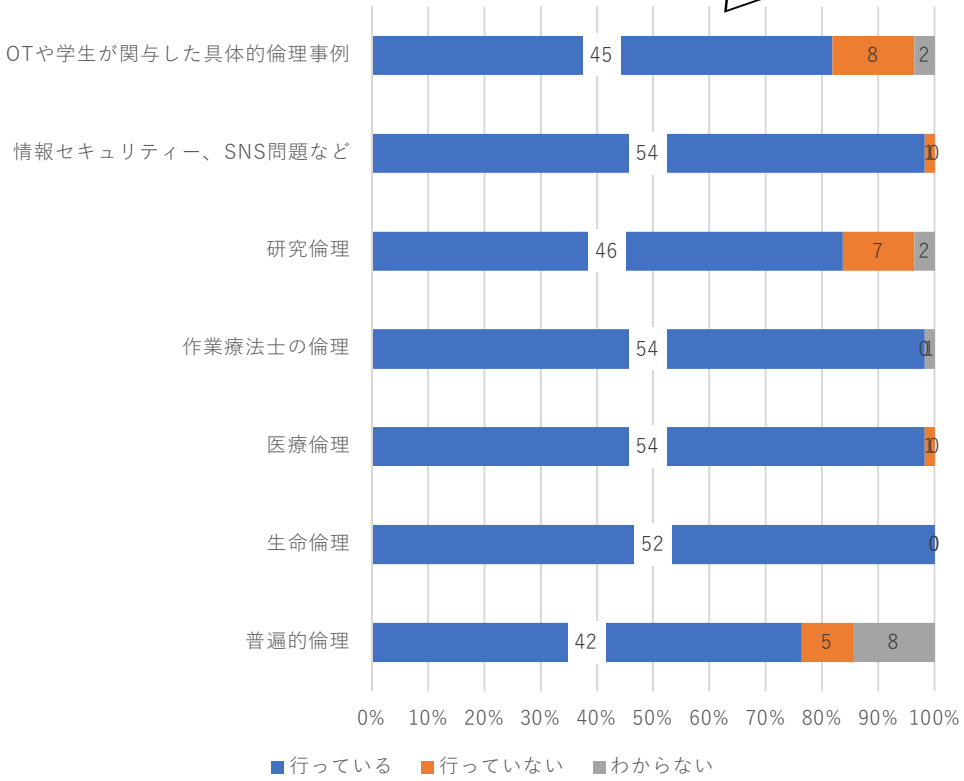
2.学生に対する倫理教育に、以下の内容を含んでいますか

生命倫理、医療倫理に比べ、
研究倫理、普遍的倫理教育を
行ってない割合多い

大学（短大含む）



専門学校



その他、学生に対して養成校で行っている倫理教育内容

普遍的倫理 職業倫理 （医療倫理）	• BBSを組織（？） • 薬物に関する講義 • ハラスメント講座（外部講師：一般事例） • 人権・倫理委員会が実施するハラスメント（LGBT含む）研修会 • 対象者の権利の尊重、SDGsに関すること • 守秘義務契約 • メディカルマナー、多職種理解に関連する倫理（教育？） • 基礎科目：職業人の倫理と道徳論を実施 • 実習前講義：倫理を高める障害当事者による講義 • 臨床実習で起こりうるハラスメント案件説明講義 • アイデンティティ教育：本学の伝統と特徴を認識しプライドを持って医療に貢献 • 臨床倫理（Jonsenの四分割法）、ケアの倫理、専門職倫理 • OT概論の教科書、WMA（世界医師会）による「医の倫理マニュアル」などを活用 • チーム医療福祉（科目？）：事例を通した倫理的ジレンマの検討
研究倫理	• 研究倫理については今後の計画 • 情報倫理、卒論（倫理審査）課程で個別の研究倫理教育
生命倫理	• 科目として実施 • 解剖実習前に生命倫理について入念に教育

各種講義内容
方法、資料

当事者講義

事例
検討

学生に対する倫理教育について不足していると考える内容

下線部は頻度が多かった回答である

・情報セキュリティーやSNS問題
・OTや学生が関与した具体的事例
・トランスジェンダー、LGBTなどマイノリティの人たちへの配慮、性差別に関する教育
・研究倫理、生命倫理、倫理の基本的な考え方や多様性の尊重などについての教養的内容
（一般の倫理学の基礎を高校で学習していないことが多い）
・基本的人権・生存権などの憲法
・「倫理」という意味も含めて伝えないと単なる「やってはいけないことリスト」になる

普遍的倫理に関する基本的な教育の必要性

・OT協会で倫理事例を把握しているが、会員にはどのような事件が起こったのかわからない。新聞などの報道に挙がるレベルにならなければ我々も分からない状況。OT協会の理事が入会案内を行う旨を提案しているが、低学年時にもこのような倫理教育を含むような講義を行ってほしい

OT協会が把握する具体事例公開の必要性

・各科目やガイダンス等で学生に伝えているものの、体系立った教育がなされているか、把握・共有ができていないように感じられる

養成機関の体系的教育の必要性

・説明はするが十分な時間が取れないため、浸透しているどうかはわからない
・付属施設として病院がないので職業倫理を伝えるのに限界がある
・臨床現場を想定した態様教育
・グループワークなどの演習
・概念的で具体性に欠ける
・ハラスメント教育、実習指導者によるハラスメントを認知し難い（申し出難い）

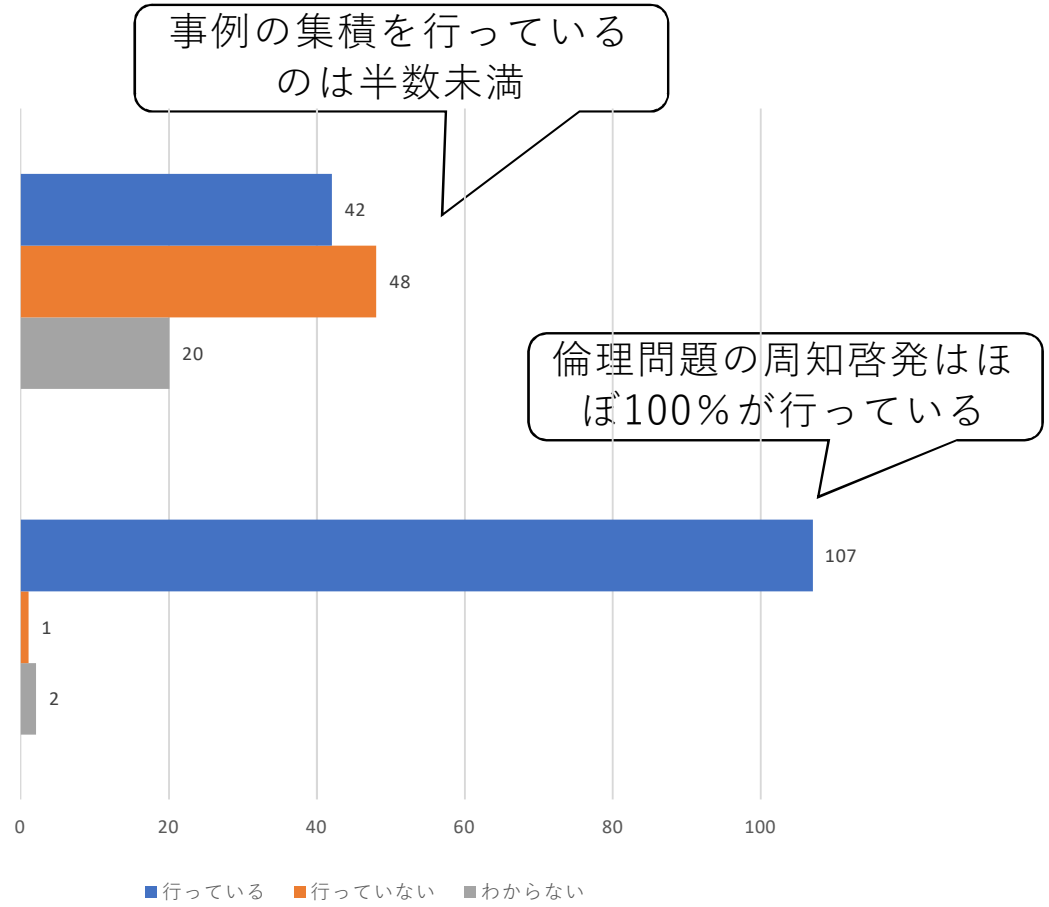
概念教育だけでなく演習による習得の必要性

臨床実習における学生の関与する倫理問題把握の必要性

3.学生が関与する倫理問題の理解と対処に関する周知・啓発

■貴校の学生が起こした倫理的問題、あるいは被害を受けた倫理的問題に関する事例情報を集積していますか-

■学生が起こしやすい倫理的問題、あるいは被害を受けやすい倫理的問題について、学生に周知・啓発を行っていますか

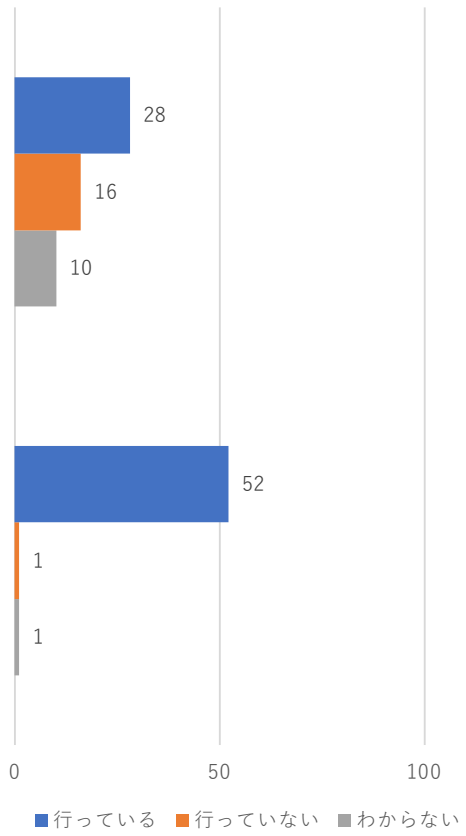


3.学生が関与する倫理問題の理解と対処に関する周知・啓発

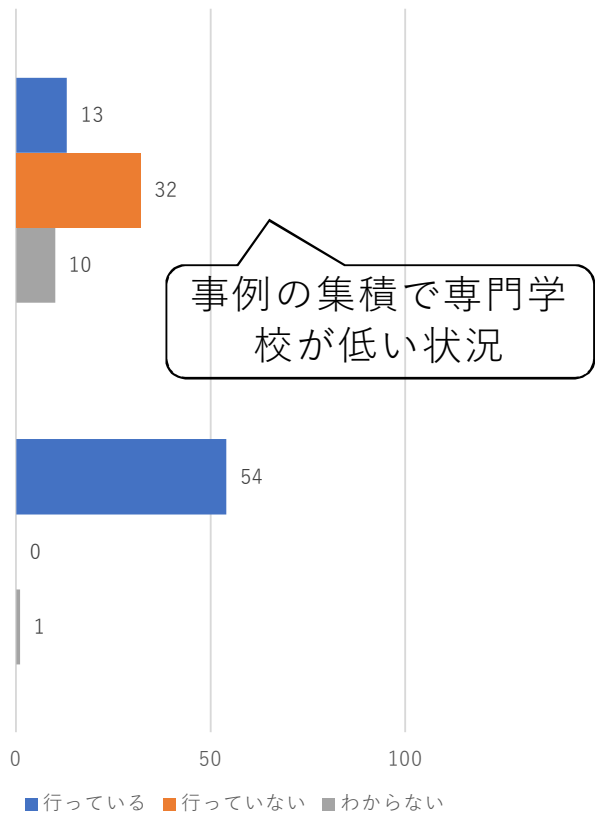
■貴校の学生が起こした倫理的問題、あるいは被害を受けた倫理的問題に関する事例情報を集積していますか -

■学生が起こしやすい倫理的問題、あるいは被害を受けやすい倫理的問題について、学生に周知・啓発を行っていますか -

大学（短大含む）

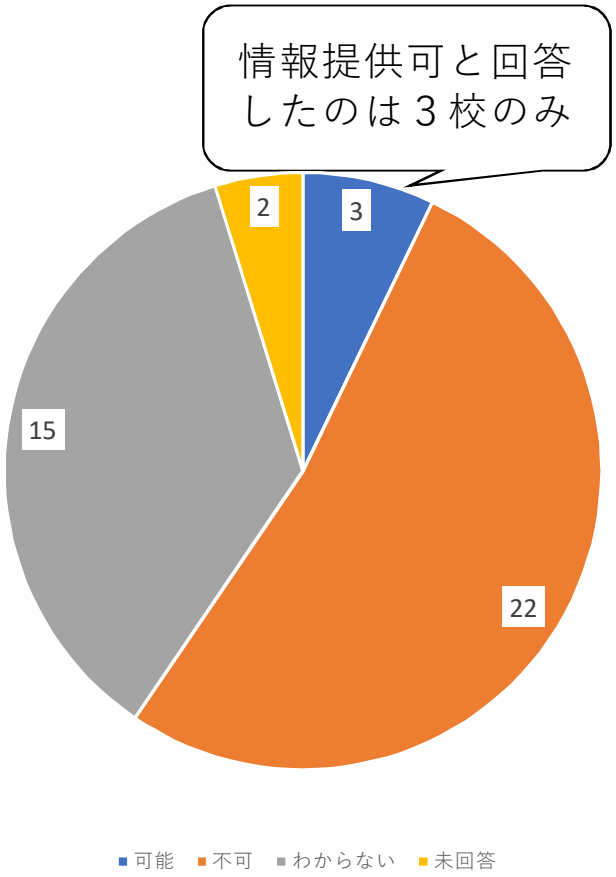


専門学校

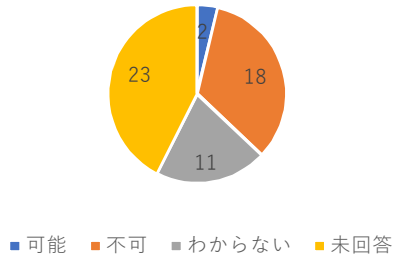


養成校で集積している具体的倫理事例の情報提供の可否

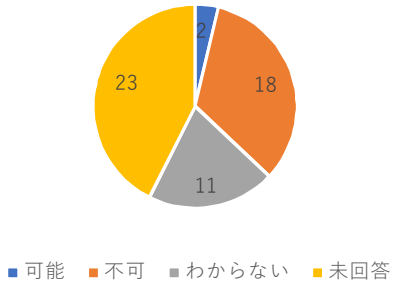
（「学生が関わった倫理事例を集積している」と答えた場合のみ回答）



大学（短大含む）



専門学校

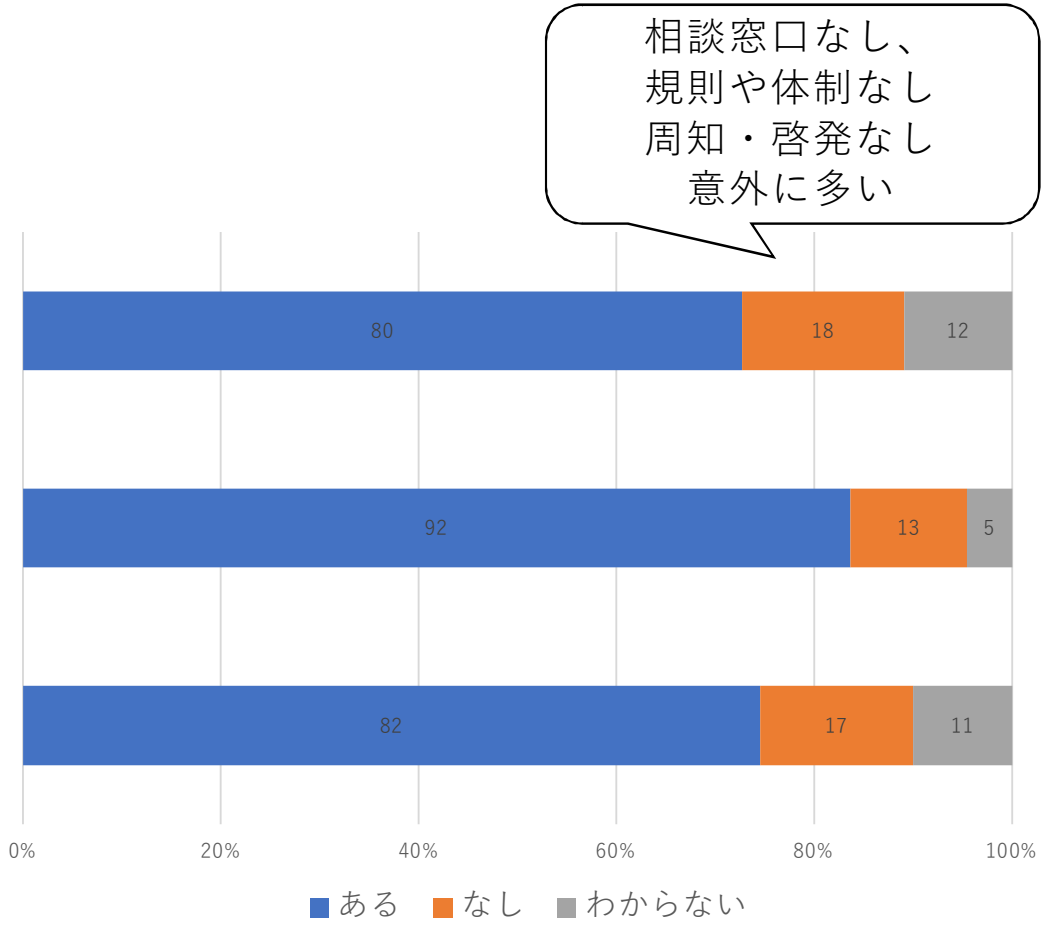


4.学生が関与する倫理問題に対応する体制

■学生に対し、倫理的問題の相談窓口について周知・啓発を行っていますか -

■学生が関与する倫理的問題について相談する窓口がありますか

■貴校では、学生が関与する倫理的問題に対応する規約や体制がありますか



4.学生が関与する倫理問題に対応する体制

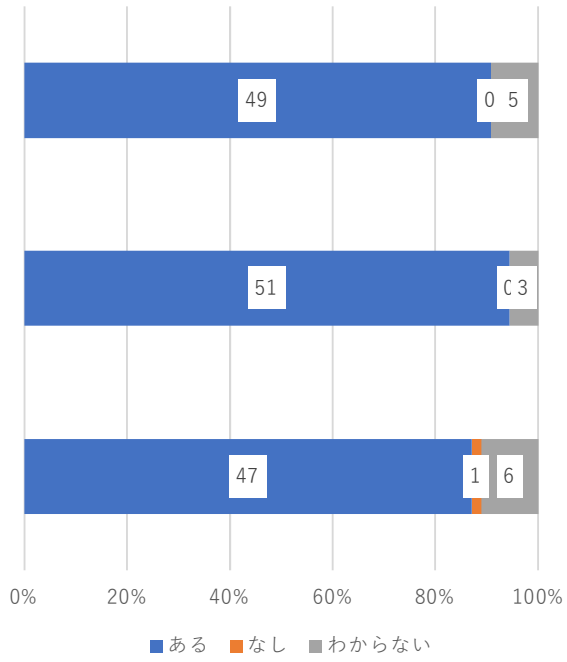
＊専門学校でなしが多い

■学生に対し、倫理的問題の相談窓口について周知・啓発を行っていますか –

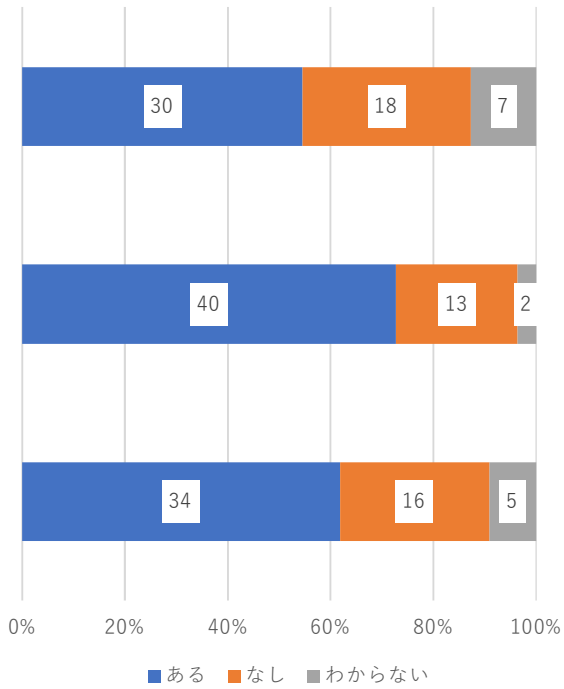
■学生が関与する倫理的問題について相談する窓口がありますか

■貴校では、学生が関与する倫理的問題に対応する規約や体制がありますか

大学（短大含む）



専門学校



どのような方法で学生に相談窓口の周知・啓発を行っているか

下線部は頻度が多かった回答

・入学・進学時のオリエンテーション、ホームルームでのアナウンス、スタートアップセミナー
・教員との面談（状況に応じては学科長や校長が対応）
・大学のポータルサイト、メール配信、ホームページ、学内掲示（ポスター）、Web学務システム上の掲示、学生便覧、リーフレットの配布
・学生相談室の利用
・Student Pocket Diaryとして携帯しやすい大きさのものを全ての学生へ配布
・ユニバーサルパスポートへの掲示
・教員で構成する学生生活委員会で週２回学生相談を開催しており、そこで相談を受け付けていることを掲示および口頭で説明
・教員チューターによる相談
・カウンセリング専門部署を設けておりそこで兼務
・実習前のオリエンテーション、実習の手引き、ハラスメントの具体例とハラスメントの対応・相談窓口について説明
・学期の節目や保護者会での説明，事務局設置
・全学ハラスメントアンケート調査の実施とその結果の周知
・各学科にハラスメントに関する相談窓口となる教員を設置
・ハラスメント委員会、スクールカウンセラー
・学生部にて心理面や生活面の相談窓口、学生部長の1名は警察OBでSNS被害等の窓口
・臨床心理士（常勤）の相談ルーム開設
・掲示をURL又はQRコードにて行いGoogleフォームにて回収
・懲戒規程やハラスメント規程，事務組織として学生支援係を設置

多様な方法で行っていることはわかるが、何が効果的かは不明

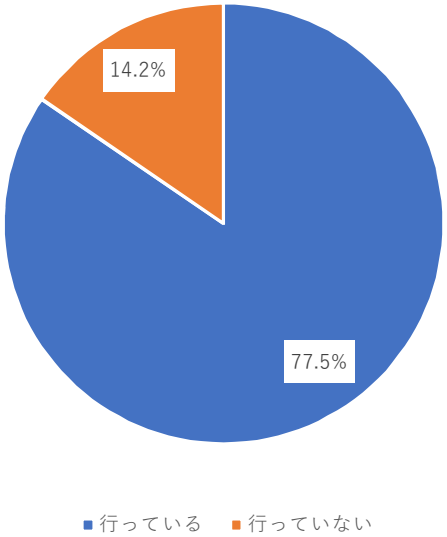
時期別に、繰り返し行うことが必要と想像する

【教員や職員に対する倫理教育と体制について】

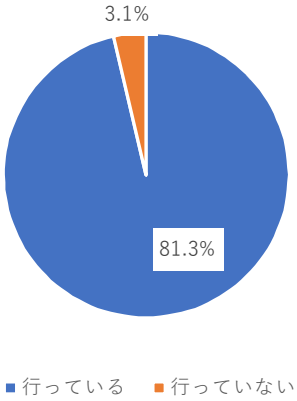
教員や職員に対する組織的な倫理教育や研修を行っていますか

【組織的な倫理教育や研修】

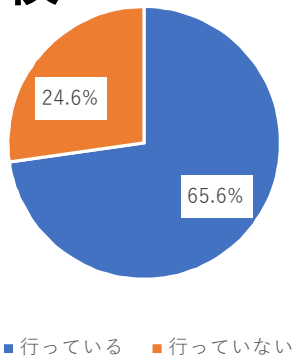
＊なし、意外に多い



大学（短大含む）

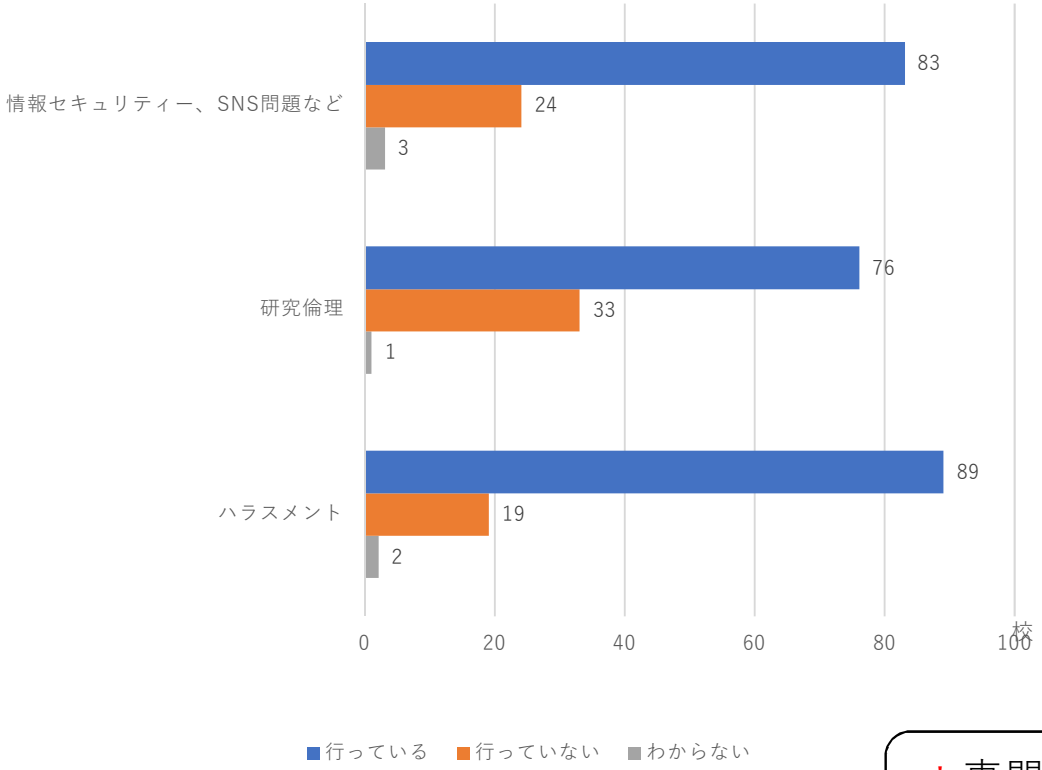


専門学校

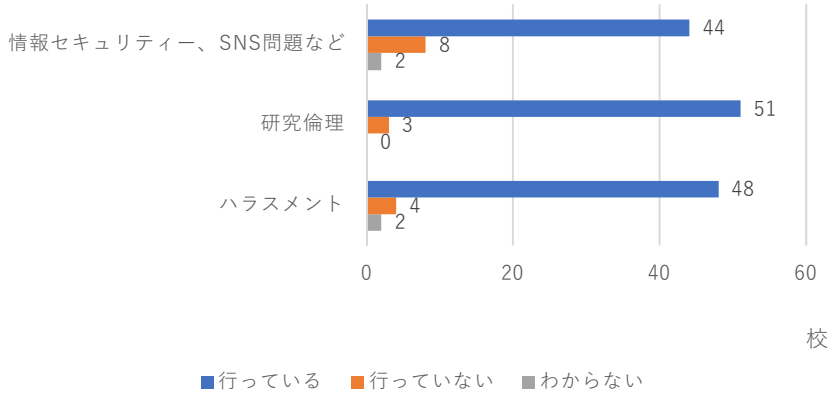


＊専門学校で
なしが多い

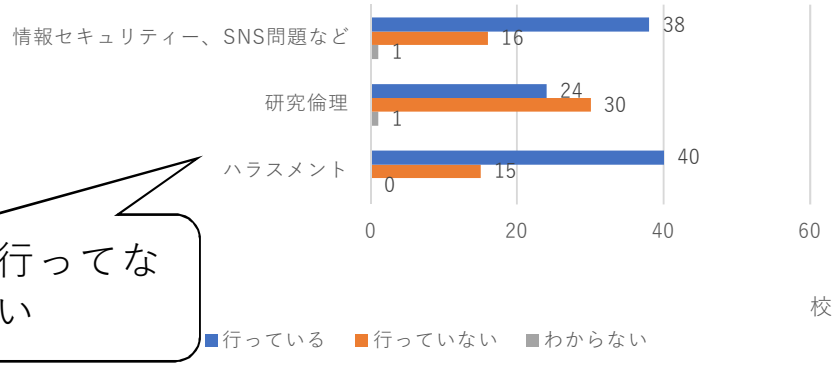
教員や職員に対する倫理教育の内容



大学（短大含む）



専門学校



＊専門学校で行ってないが多い

その他、教員や職員に対して行っている倫理教育内容

下線部は頻度が多かった回答

・ＬＧＢＴに関するＦＤ
・外部講師によるハラスメント講習、専門職員によるセキュリティー倫理の情報提示
・人権倫理委員会主催ハラスメント研修（年２回）
・人権倫理委員会主催全学ハラスメントアンケート実施とその結果

・アイデンティティ教育、医療倫理
・当該事案が出た際に随時教員間で対応等の振り返りを実施
・教員に対しては「倫理教育」という形ではなく様々な観点で教員同士で「倫理」についてディスカッション

・研究倫理に関する講習会を実施
・利益相反

・FD、SD、動物実験に関する説明会（倫理関連・動物慰霊祭）

SDとは“Staff Development”の略で、職員（「職員」には、事務職員のほか、教授等の教員や学長等の大学執行部，技術職員等も含まれる。）が、大学等の運営に必要な知識・技能を身に付け、能力・資質を向上させるための研修を意味します

3.教員や職員に対する倫理教育について不足していると考える内容

下線部は頻度が多かった回答

・情報セキュリティーとSNS問題
・ハラスメント問題
・倫理教育についての時間
・ＬＧＢＴの学生への対応、環境整備になどにつながる内容
・教員と学生間等人間関係性に関する倫理教育
・研究倫理

・教育・研修が行っておられず、問題事象も散見される
・任意参加の取り組みが多いため，意識の低い教職員に届きにくい
・ OT教員の倫理観は比較的高いが、一部男性PT教員の倫理観が低い状況が放置・看過されており PT教員の倫理を基礎からやり直す必要があると感じる
・グループワークなどの演習

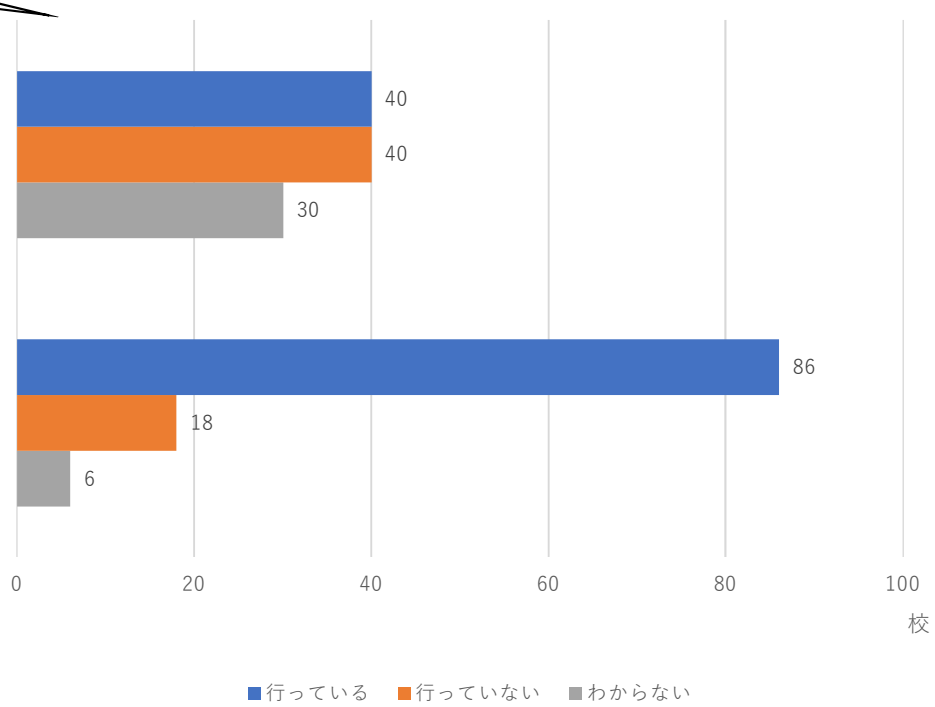
・委員会が設立されていない

教員や職員が関与する倫理問題の理解と対処に関する周知・啓発

事例の集積を行っているのは半数未満

■教員や職員が起こした倫理的問題、あるいは被害を受けた倫理的問題に関する事例情報を集積していますか

■教員や職員が起こしやすい倫理的問題、あるいは被害を受けやすい倫理的問題について、教職員に周知・啓発を行っていますか



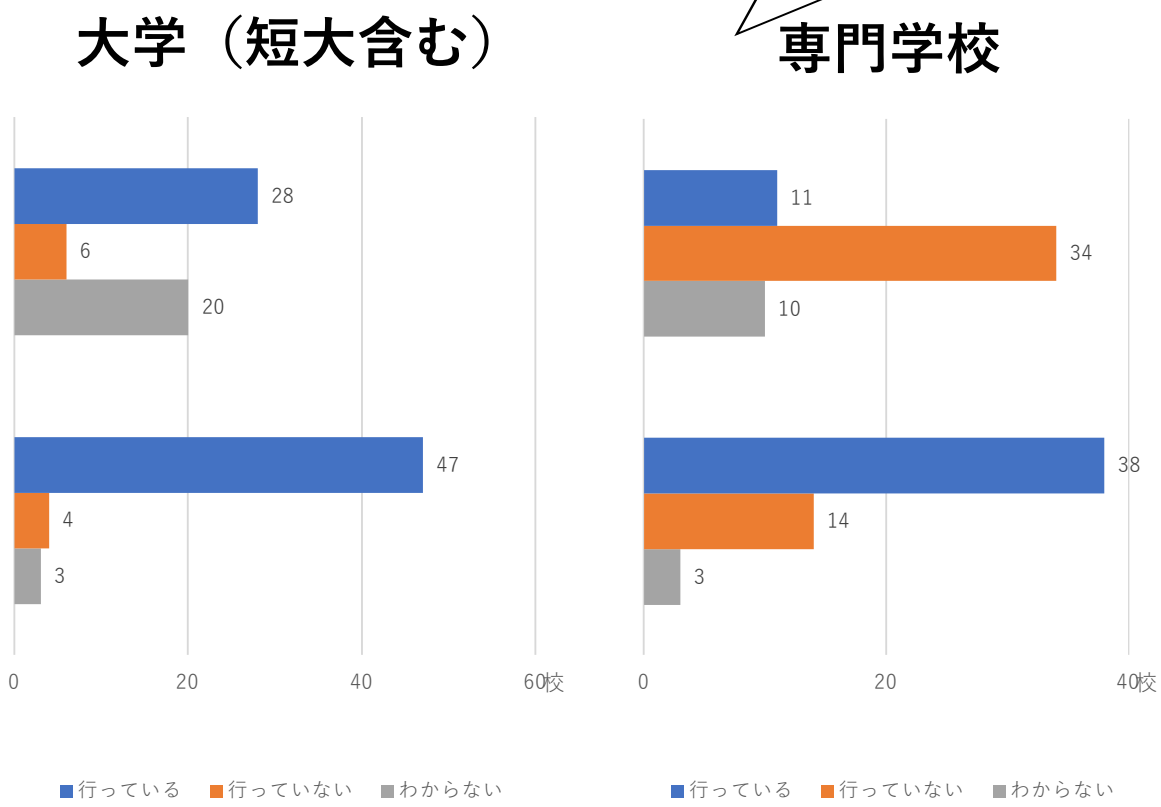
倫理問題の周知啓発の割合は、は学生に対する割合よりも低い

教員や職員が関与する倫理問題の理解と対処に関する周知・啓発

事例の集積を行っている
専門学校は11校：18.5％

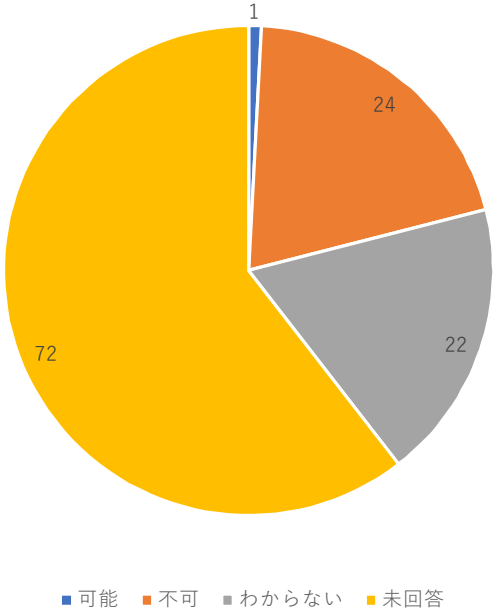
■教員や職員が起こした倫理的問題、あるいは被害を受けた倫理的問題に関する事例情報を集積していますか

■教員や職員が起こしやすい倫理的問題、あるいは被害を受けやすい倫理的問題について、教職員に周知・啓発を行っていますか

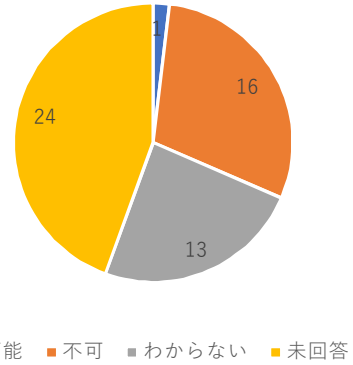


養成校で集積している具体的倫理事例の情報提供の可否
（「教員や職員が関わった倫理事例を集積している」と答えた場合のみ回答）

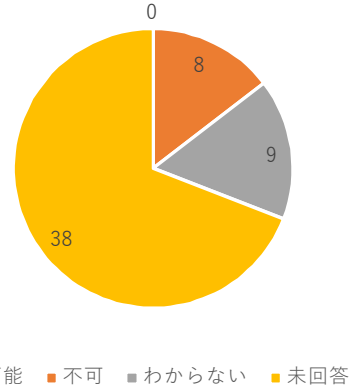
情報提供可
1校のみ



大学（短大含む）



専門学校



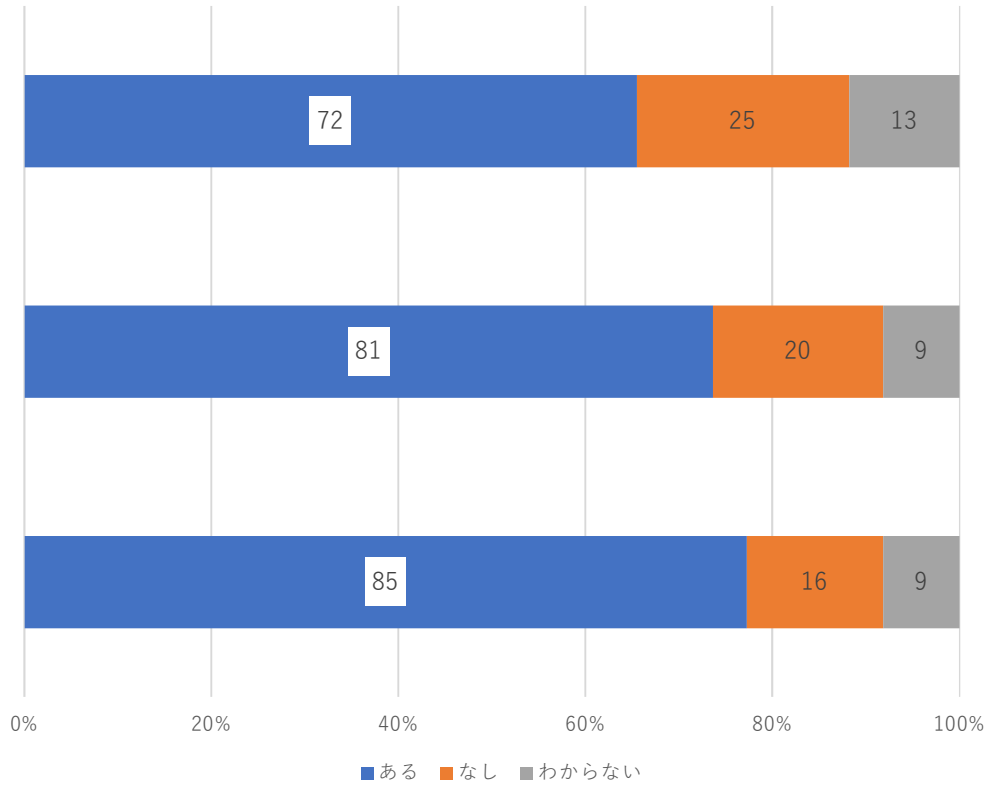
5.教員や職員が関与する倫理問題に対応する体制

＊なし、意外に多い

■教員や職員に対し、倫理的問題の相談窓口について周知・啓発を行っていますか

■教員や職員が関与する倫理的問題について相談する窓口がありますか

■教員や職員が関与する倫理的問題に対応する規約や体制がありますか



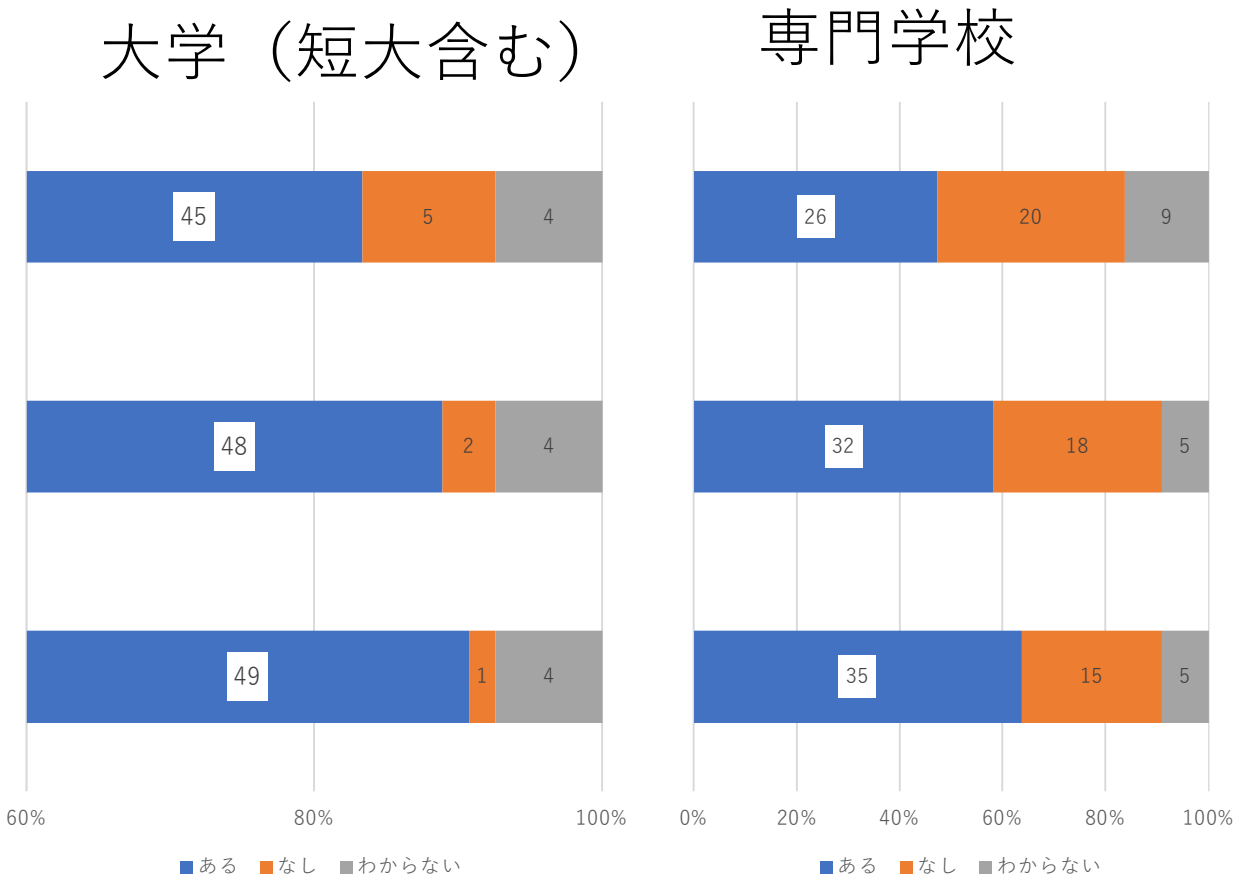
5.教員や職員が関与する倫理問題に対応する体制

相談窓口の周知・啓発を行っている専門学校は半数以下

■教員や職員に対し、倫理的問題の相談窓口について周知・啓発を行っていますか

■教員や職員が関与する倫理的問題について相談する窓口がありますか

■教員や職員が関与する倫理的問題に対応する規約や体制がありますか



6.どのような方法で教員や職員に相談窓口の周知・啓発を行っているか

下線部は頻度が多かった回答

・大学ポータルサイト、ホームページ、学内メール、電子掲示板
・定例会議、教授会
・研修会の開催（ハラスメント、FD)、その中で窓口を周知
・倫理的問題に対する委員を配置
・学科長が第一の相談窓口となっており、教職員にはその旨を口頭で伝えている
・倫理委員会を設置
・カウンセリング専門部署を設置
・Faculty Development委員会を設置
・入職時面談及び当該事案発生時に口頭にて伝達・全体教職員会での報告
・ハラスメントの相談窓口
・ハラスメント委員を選出していることを周知・FD、SD、Web上での掲示
・就業規程に相談窓口に関する内容を記載、周知
・各教員の机に必ず窓口の連絡方法を掲示
・相談窓口は学科責任者以外の役職者（男女各1名）が担当し、倫理的問題については学科会議等で報告、ディスカッションを行うか、個別面談で周知・啓発を行う。

行っている養成校は、多様な方法で行っており、体制も整備されていることがわかる。